

## 県立学校における 森林環境学習推進事業

平成29年1月19日

福島県教育庁高校教育課  
指導主事 鈴木 和明

### 福島県の取り組み

福島県 森林環境税の導入(平成18年度より)  
「県民一人ひとりが参画する新たな森林(もり)づくり」

森林との共生関係を形成するために

- ・森林の役割を理解
- ・森林を守り育てる心の育成

高校生へ質問:  
「森林はどのように育てていくと思いますか」

高校生へ質問:  
「森林はどのように育てていくと思いますか」

生徒の答え: 木を植える

その後は、自然のまま、人の手を加えない

### 森林環境学習推進事業とは？

- ・ 森林に関する体験的な学習を行う
- ・ 森林を守り育てる意識を高める
- ・ 地域の森林環境を保全するために、主体的に行動する態度や資質、能力を育成

### 重点的に取り組む内容

- (1) 地域の人々から、森林と人との関わりを学ぶ
- (2) 森林資源の活用や森林に関わる地場産業を学ぶ
- (3) 学習成果を地域に向けて発信する

## 対象高校

### 第1期実績(平成18～22年度)

- ・県立学校における森林環境学習推進事業 事業費:15,645千円  
岩瀬農業高校ほか9校(延べ13校)

### 第2期実績(平成23～27年度)

- ・県立学校における森林自然学習支援事業 事業費:10,131千円  
会津学鳳中学校ほか9校(延べ59校)

### 第3期(平成28年度～)

- ・県立学校における森林環境学習推進事業 事業費:2,500千円  
福島工業高校ほか10校

## 実施概要

### ○中学校、特別支援学校、普通高校

- ・森林や木材とふれあう体験的な学習や外部講師を活用した学習  
(児童生徒が森林の役割や森林文化に対する興味・関心を高める)

### ○農業や工業などの専門高校

#### ・現場見学や外部講師を活用した学習

- (森林保全や林産物産、森林資源の利活用に積極的に関わろうとする態度を身につける)
- (職業に対する理解を深めさせる)

## 平成28年度の対象校(10校)

- ・福島工業高校
- ・修明高校鮫川校
- ・会津農林高校
- ・南会津高校
- ・田島高校
- ・耶麻農業高校
- ・川口高校
- ・遠野高校
- ・磐城農業高校
- ・会津学鳳中学校

## これまで対象校となった学校の取り組み

- ・木の種類や里山の管理方法の学習、枝打ちの実技  
(修明高校鮫川校)
- ・サギソウの保護活動を通じた森林の重要性を理解する学習  
(岩瀬農業高校)
- ・炭窯づくりや炭焼き体験  
(耶麻農業高校)
- ・和紙手すき体験  
(あぶくま養護学校)
- ・ミツバチの生態を通して学ぶ自然環境  
(川口高校)
- ・磐梯山周辺の自然観察を通じた、森林での体験学習  
(会津学鳳中)

## 実践例の紹介1 福島工業高校

### 取組テーマ【福島県の森林にふれる】

- 実施時期 10月29日
- 対象生徒 定時制生徒全学年
- ねらい

森林の環境問題や、森林保全に関する知識を養い、(中略)間伐材を利用する技術を学ぶ

#### ○具体的な内容

- ・フィールドワークの実施(フォレストパークあたたら)
- ・伐採作業体験

## 福島工業高校生徒の活動の様子

講師から伐採について説明を聞く



伐採の技術を学ぶ



## 実践例の紹介2 修明高校鮫川校

取組テーマ **【鮫川村と林業】**

○実施時期 12月14日、16日

○対象生徒 高校1年生

○ねらい

鮫川村の主幹産業についての理解を深め、その良さをしっかりと自覚し体験する

○具体的な内容

・外部講師 鈴木寛重氏による森林学習

・福島県南林業事務所との連携による林業現場見学会

## 修明高校鮫川校生徒の活動の様子

林業現場見学会での様子



地元木材加工場で学ぶ生徒達



## 実践例の紹介3 会津学鳳中学校

取組テーマ**【森林環境・資源と私たちの生活】**

○ねらい(抜粋)

- ・生徒の森林生態系に対する関心や理解を深める
- ・エネルギー問題や環境問題についての関心を高める

○実施時期 7月8日～9日

○対象生徒 中学2年生

○具体的な取り組み内容

・森林体験学習～雄国沼周辺の樹木観察(講師:本田隆氏)  
～磐梯山周辺の自然散歩

・間伐材を利用したものづくり(講師:森林組合職員2名)

## 会津学鳳中学校生徒の活動の様子

森林の中で学ぶ生徒達



どんな植物があるのかな?



## 会津学鳳中学校生徒の活動の様子

間伐材を使ったプランターづくり



森林組合員を講師に招いての講義



## 研修の感想

・雄国沼で見られる珍しい植物をたくさん見ることができた。

・急速な都市化で自然環境は刻々と変化していく中、美しい景観が保護されていてとても良かった。感動した。

・木がこんなに大切なんだと気づかされました。木は私たちにとって一番優しく、大切に扱わなければならないものなんだと思いました。

## ゴムの木の一生

○ゴム・プランテーションの栽培サイクル

へベアを採取するためには？

\* へベア・・・ラテックスを含む白い乳液上の樹液

1年目 土地を耕す

2年目 種をまく

7年目以降～25年 採取が可能な期間

これ以降は木を切り倒し、また種から栽培する

## 言い換えると

投資期間 7年間

生産期間 18年間

これ以降は振出しに戻る

## 植物栽培のリスク

菌やさまざまな病気から木を守る

天候や自然災害により大きな被害が出る

気温が零度を下回れば低温障害が発生

野火や山火事が起きれば全滅の可能性も

## ゴムの木の栽培サイクルから見えること

木の栽培サイクルを短縮することはできない

すなわち

プロセスは尊重しなければならない

一段階でもおろそかにしてはならない

## まとめ

・実際に森林の中に入って活動することの意義

・外部講師の活用の意義

・地元の専門企業や森林組合などの連携

・学校での学習活動を地域に向けて発信する